

平成 29 年度に特許庁が達成すべき目標について

経済産業省は、「日本再興戦略 改定 2016」（平成 28 年 6 月 2 日閣議決定）に掲げられた、「第 4 次産業革命等を勝ち抜く知財・標準化戦略の推進」に向け、イノベーション創出を支える知財システムの構築、中小企業等の知財活動に対する支援の強化等に取り組んできている。

そうした取組の一環として、以下のとおり、中央省庁等改革基本法第 16 条第 6 項第 2 号の規定に基づく特許庁の実施庁目標を設定したので、これを公表する。

1. 特許

(1) 審査期間

- ・ 一次審査通知までの平均期間について、「9～11 カ月」とする。
- ・ 早期審査¹の対象案件に関し、早期審査の申出がなされてから一次審査通知までの平均期間について、「3 カ月以内」とする。
- ・ スーパー早期審査²の対象案件に関し、スーパー早期審査の申出がなされてから一次審査通知までの平均期間について、「1 カ月以内」とする。
- ・ 権利化までの平均期間³について、「14～16 カ月」とする。

(2) 審査の質

- ・ コミュニケーションに関するユーザーの評価⁴について、「上位評価割合を 60%以上」とする。
- ・ 出張面接審査及びテレビ面接審査の実施件数を「700 件以上」とする。

2. 意匠

(1) 審査期間

- ・ 一次審査通知までの平均期間⁵について、「5～7 カ月」とする。

¹ 出願人又はライセンスを受けた者がその発明を実施している場合（例えば、その発明を事業化している場合）、外国にも出願している場合、出願人が個人、中小企業等の場合等が対象。

² 出願人又はライセンスを受けた者がその発明を実施しており、かつ、日本以外にも出願している場合等が対象（ただし、オンライン出願に限る。）。

³ 出願人が補正等を行うことに起因して、特許庁から再度の応答を求められる場合、特許庁に応答期間の延長を求める場合など、出願人に認められている手続きが利用される場合を除く。

⁴ 主たる出願人に対し、アンケートを送付。「5：満足」、「4：比較的満足」、「3：普通」、「2：比較的不満」、「1：不満」のうち、上位 2 段階である「5：満足」及び「4：比較的満足」を集計。

⁵ 国際意匠登録出願の場合を除く。

- ・ 早期審査⁶の対象案件について、早期審査の申出がなされてから一次審査通知までの平均期間⁷について、「3カ月以内」とする。
- ・ 権利化までの平均期間⁸について、「6～8カ月」とする。

(2) 審査の質

- ・ コミュニケーションに関するユーザーの評価⁴について、「上位評価割合を60%以上」とする。
- ・ 出張面接審査及びテレビ面接審査の実施件数を「70件以上」とする。

3. 商標

(1) 審査期間

- ・ 一次審査通知までの平均期間⁹について、「5～7カ月」とする。
- ・ 早期審査¹⁰の対象案件について、早期審査の申出がなされてから一次審査通知までの平均期間について、「3カ月以内」とする。
- ・ 権利化までの平均期間¹¹について、「6～8カ月」とする。

(2) 審査の質

- ・ コミュニケーションに関するユーザーの評価⁴について、「上位評価割合を60%以上」とする。
- ・ 個人・中小企業、地域団体商標の出願人（権利者）に対する最終処分前の審査官からの連絡の実施件数（通知、電話、面接等の件数）を「1,000件以上」とする。

4. 審判¹²

(1) 拒絶査定不服審判

- ・ 特許拒絶査定不服審判の平均審理期間¹³について、「11～13カ月」とする。

⁶ 第三者が類似する意匠を実施しているなど、権利化について緊急性を要する場合、外国にも出願している場合等が対象。

⁷ 出願手続きに瑕疵がある場合及び事情説明書の補充を要する場合を除く。

⁸ 国際意匠登録出願を除く。また、出願人が制度上認められている期間を使い補正等を行うことによって、特許庁から再度の応答を求められる場合等を除く。

⁹ 音など、新しいタイプの商標及び地域団体商標に係る出願を除く。

¹⁰ 出願人が既に使用中又は使用の準備を相当程度進めており、かつ、第三者が類似するマークを使用している場合、外国にも出願しているなど、緊急性を要する場合等が対象。

¹¹ 音など、新しいタイプの商標及び地域団体商標に係る出願を除く。また、出願人が制度上認められている期間を使い補正等を行うことによって、特許庁から再度の応答を求められる場合等を除く。

¹² すべての手続き種別について、実質的な審理期間を統一的に示すため、平成29年度から、期間算定の定義を変更（方式調査等終了後の審理の期間。請求人の都合による期間等を除く。）。

¹³ 請求人等が補正等を行うことに起因して、特許庁から再度の応答を求められる場合、特許庁に応答期間の延長を求める場合など、請

- ・ 意匠拒絶査定不服審判の平均審理期間¹⁴について、「4～6 カ月」とする。
- ・ 商標拒絶査定不服審判の平均審理期間¹⁵について、「5～7 カ月」とする。

(2) 早期審理¹⁶ (拒絶査定不服審判)

特許、意匠及び商標の平均審理期間¹⁷について、「2～4 カ月」とする。

(3) 無効審判

特許、意匠及び商標の平均審理期間¹⁸について、「8～10 カ月」とする。

(4) 異議申立て

平均審理期間¹⁹について、特許では「8～10 カ月」、商標では「5～7 カ月」とする。

5. 出願・登録等

(1) 電子出願システム

停電や大規模災害等が発生した場合も含め、24 時間 365 日、電子出願を安定的に受け付ける²⁰。

(2) 出願書類の方式審査

オンライン出願書類の方式審査のうち、特許、意匠及び商標の方式審査の全件について、受付から「即日」で処理を行う²¹。

(3) 特許、意匠及び商標の権利登録

設定登録

受付から登録原簿への登録までの期間について、全件を「10 日以内」とする²²。

求人等に認められている手続きを利用した事件、中止・中断等がなされる事件、及び、当事者への書類の送達が困難な事件（公示送達等）を除く。

¹⁴ 国際意匠登録出願に係る事件及び脚注 13 で示した事件を除く。

¹⁵ 音など、新しいタイプの商標及び地域団体商標に係る事件並びに脚注 13 で示した事件を除く。

¹⁶ 対象となる事件は、脚注 1, 6, 10 を参照。

¹⁷ 早期審理の申出がなされてからの審理の期間。

¹⁸ 脚注 13～15 で示した事件を除く。

¹⁹ 権利者が取消理由通知（決定の予告）に対応して訂正等を行うことに起因して、特許庁から再度の応答を求められる場合、特許庁に応答期間の延長を求める場合など、権利者等に認められている手続きを利用した事件、中止・中断等がなされる事件、及び、当事者への書類の送達が困難な事件（公示送達等）を除く。

²⁰ システムのメンテナンス時間及びバックアップセンターへの切替時間を除く。

²¹ 手続きに不備がある場合を除く。

²² 書面による場合及び手続きに不備がある場合を除く。

移転登録

受付から登録原簿への登録までの期間について、全件を「10日以内」とする²¹

(4) 特許、意匠及び商標の公報の発行

原則として、登録日から「3~4週間以内」とする。

(5) 出願、登録等に関する問い合わせへの対応

電話の場合は、原則として、「即時(折り返し対応の場合は即日)」、メールの場合は、原則として、「2営業日以内」とする。

6. 中小企業支援及びグローバル化への対応

(1) 中小企業支援

(独)工業所有権情報・研修館と一体となって、以下の定量目標の実現を目指す。

- ・ 全国の知財総合支援窓口における相談件数について、「83,000件以上」とする。
- ・ 全国の知財総合支援窓口を通じた弁理士、弁護士等の専門人材による支援件数について、「13,000件以上」とする。
- ・ 全国の知財総合支援窓口とよらず支援拠点との連携件数について、「1,000件以上」とする。
- ・ 知的財産に着目した融資等を行う全国の金融機関数について、「累計28機関以上²³」とする。
- ・ 新規に特許等の出願を行う中小企業数について、「11,000社以上」とする。

(2) 特許審査ハイウェイ(PPH)の一次審査通知期間²⁴

特許審査ハイウェイに係る特許出願について、申請後一次審査通知までの平均期間を「3カ月以内」とする。

(3) 新興国の知的財産行政関係者等を対象とする招へい研修

招へい人数について、「340名以上」とする。

²³ 特許庁の知財ビジネス評価書作成支援を活用して融資を行った金融機関数(公表分)。

²⁴ 他庁で特許可能と判断されて申請された案件の我が国における申請から一次審査通知までの期間。ただし、他庁等から特許庁に必要書類が送付されるために要する期間は除く。

(参考)人工知能(AI)技術の活用

特許庁は、事務の高度化・効率化に向け、平成28年度から、AI技術の活用に向けた実証を行っている。平成29年度には、特許庁内における実証を深化させるとともに、民間機関に外部委託している業務についても、検証・実証を拡大する。

特許庁は、当面、それらの取組を踏まえ、将来的なAI技術の本格活用に向けたアクション・プランを策定・公表する。